

◆ 「ハート・プラス」の活動が7月25日発売の「クロワッサン」8月10日号「女の新聞」日常生活の中の差別にて掲載されます（予定）
代表者、春名、清水の2名がインタビューを受けました、是非ご覧ください。
今回はその春名さんと、清水さんに感想を伺ってみました。質問者（白井）

◆ さて、クロワッサン取材の率直な感想は？

春名 素直に嬉しかった反面、あの少ない紙面でどこまでこちらの意図を汲み取ってくれるか心配でした。

清水 第1問目から恐縮ですが、まったく取材慣れしていなかった私は終始緊張のしっぱなしでした。おそらく写真の笑顔も固いかと。（苦笑）

◆ ライターさんカメラさんの印象はいかがでした？

春名 どちらもベテラン(?)のご婦人方でしたが、わずかな時間で信頼関係が築けるわけでもなく、正直「ちゃんと伝わってる？」って思っていました。

清水 第一印象はお二人ともベテランさんだな～、という感じ。
取材自体に付きましては概述にもありますように、なにぶん初体験だったので・・・。（苦笑）

◆ 見えない障害を言葉で伝えるのは非常に難しいものですが、それを取材中にも感じました？

春名 今回に限ってのことではないですが『風邪をひいたことの無い人に、風邪をひいた感じを伝えるもどかしさ』がありました。先方に見れば、たくさんの取材対象の中のヒトコマだし、こちらとしては「このチャンスを最大限活かす！」という意気込みですから、温度差が微妙にあったかもしれないです。

清水 やはり当事者である患者本人との温度差は感じました。
とは言うもののそれは、止むを得ない事なのですが。
クローン病の食事制限についてダイエットを引き合いに出されましたが正直困惑してしまいました。日常著しい食事制限を課せられている私にとって、「食事」とは心のレクリエーションだと受け止めています。
しかし、ダイエットに関しても、それをされている方はその人なりの苦しみに耐えながら、食事を制限しているはず、という気持ちが頭にあつたためクローン病に関しての自身の率直な気持ちを表すことが出来ませんでした。
まだまだ磨きが足りませんね。

◆ 二人のうち雄弁だったのは（＾＾）

春名 それはもう私でしょう (笑)。

でも、先方には清水氏の持病が新鮮に映っていたようです。

(実際、紙面上の表現が難しかったようで、読者の誤解を受けかねないか心配です)

清水 なんとと言っても春名氏の活舌の良さ。

取材の進行もスムーズだったように思います。

◆1ページという少ない紙面の都合、掲載しきれなかった部分や補足があったら
御願ひします、発売前なので解説付きで (^_^) ;

春名 紙面上では、会を作ったきっかけなどを重点的に書いてありますが、

ほんとはマークに込められた「想い」や「会の生い立ち」

「中枢メンバーの状況」なんかを取り上げて欲しかったですね。

そうすれば、『なぜサイバー空間で活動する会なのか』

『これからどういう動きをしていこうとしているのか』が伝わったと思うのですが…

そんなことすると2ページにわたってしまうでしょうねエ。

清水 今回の取材で、私の疾患「クローン病」に関する事で「感染」という語句を引用
しました。もちろん、「感染する病気ではないのか？」と訊ねられた実体験をその
まま話したのですが、私自身としては、感染症を含めて社会的に周知されていない
多数の内部疾患や難病があることを多くの方々に知って貰いたい、という思いがあ
ったのです。

しかし、この紙面の文字数で表現するには深すぎる内容でした。

限られたスペースの条件の中で、自分の意図することをどれだけ的確に相手に伝え
表現させることが出来るか。ハート・プラスがメジャーになるに従って今後もマス
メディアからの取材を受ける可能性は高いと思われれます。また、どんどん取材され
る機会を増やして行きたいと思っています。

ハート・プラスをより多くの人々に知って貰うため私自身もこの経験を次に生かさ
ねばと考えています。

=====

『サイバー空間での活動』で顔が見える活動も大切だと捉えています
この機会を与えて下さった方々に感謝します<(_)>

今後も「ハート・プラス」普及のため、チラシの配布、マークの所持
雑誌、新聞への投書、行政機関へのメール活動にご参加ください。
よろしく御願ひ致します。

」」」

現在 賛同者数 84名
メンバー 14名